

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4675100087
法人名	医療法人 慈和会
事業所名	永田診療所グループホーム
訪問調査日	平成22年2月14日
評価確定日	平成22年3月13日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4675100087
法人名	医療法人 慈和会
事業所名	永田診療所グループホーム
所在地	伊佐市菱刈南浦3491-4 (電話) 0995-22-0336
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成22年2月14日

【情報提供票より】(平成22年1月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	27 人	常勤	20人, 非常勤 7人, 常勤換算 12.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	350 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	250 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月10日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名	
要介護1	1 名	要介護2	12 名			
要介護3	1 名	要介護4	3 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	86.2 歳	最低	69 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	永田診療所 大口病院 寺田病院 こうき歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

戦前から続く診療所に併設しているホームであり、この春で開設から満10年を迎える。地元の方々との交流には特に力を入れており、当初から続けている「ふれあい悠遊」や六月灯祭りをはじめ、日頃から季節の食材や観賞用の花々を届けていただいている。幼稚園や小学校の子供たちと触れあう機会も設けており、昔話を聞かせたり車椅子の試乗や介助体験などを行っている。管理者は診療所の院長でもあり、永年地域の開業医として利用者やご家族からの信頼も厚く、安定した職員体制の下、常にサービスの質向上を目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価での改善課題はない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者および職員間で話し合って自己評価を行い、最終的に管理者がまとめて上げている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、利用者およびご家族代表、地域住民代表、行政担当者が参加し、ホームの活動や行事について報告したり、参加者から意見やアドバイスを得る機会となっている。また、参加者から出された提案等に対しては積極的に取り入れ、サービスの質向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年二回、行事に合わせて家族会を開催したり、面会時に話し合いの時間を設けるなど、意見や要望を聞く機会を確保している。運営推進会議にはご家族の代表が参加されており、会議での意見や提案を運営に反映する仕組みとなっている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム主催の交流会である「ふれあい悠遊」を10年間続けて開催しており、地域の高齢者をはじめとして、多くの住民の方々との交流機会として定着している。地域の幼稚園や小学校の運動会や学習発表会には、子供たちから手作りの招待状をもらうなどして出かけている。また、春祭りや文化祭などの地域行事にも積極的に参加し、地域との密接な関係作りに取り組んでいる。

2. 評価結果詳細

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からのわかりやすい理念を基に、ホームの果たすべき役割を反映した運営方針を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関やリビングに掲示し、毎朝全職員で唱和している。また、理念に基づく「倫理綱領」10項目や、五つの「モットー」について、日々のケアの中で確認しながら、理念の実践に向けた取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム主催の交流会である「ふれあい悠遊」を10年間続けて開催しており、地域の高齢者をはじめとして、多くの住民の方々との交流機会として定着している。地域の幼稚園や小学校の運動会や学習発表会には、子供たちから手作りの招待状をもらうなどして出かけている。また、春祭りや文化祭などの地域行事にも積極的に参加し、地域との密接な関係作りに取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者および職員間で話し合って自己評価を行い、管理者がまとめ上げている。外部評価の結果は職員へ周知し、さらなる改善に向けて積極的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、利用者およびご家族代表、地域住民代表、行政担当者が参加し、ホームの活動や行事について報告したり、参加者から意見やアドバイスを獲得の機会となっている。また、参加者から出された提案等に対しては積極的に取り入れ、サービスの質向上に活かしている。	○	運営推進会議に出席しておられないご家族に対しても、会議の趣旨や議事の内容などを報告することで、ホームの姿勢や方向性を理解していただき、さらなるサービスの質向上につながることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地区の地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、市との連携機会も多くある。利用者に関する相談や報告も行っており、行政との密接な関係作りに努めている。また、ホームの行事に参加して利用者と触れあってもらおうなど、実際の暮らしぶりを見てもらおう機会を設けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1～2回、広報誌「ゆっくり便り」を発行しており、ホームの活動内容や行事計画、誕生日を迎える利用者や職員の紹介などを、写真を掲載して報告している。遠方のご家族には、広報誌と共に本人直筆の便りや写真を同封している。日常的には、面会時や電話での状態報告など、その都度詳細な報告が行われている。金銭管理については、出納帳を確認してもらいサインをいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年二回、行事に合わせて家族会を開催したり、面会時に話し合いの時間を設けるなど、意見や要望を聞く機会を確保している。運営推進会議にはご家族の代表が参加されており、会議での意見や提案を運営に反映する仕組みとなっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新入職員を利用者へ紹介すると共に、馴染みの職員が同行しながらケアの方法を指導している。利用者と共に顔馴染みの新入職員もおり、コミュニケーションを通して信頼関係を築き、スムーズに介入できるように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修案内を職員へ回覧し、希望に応じて受講できる機会を作っている。母体法人の研修会資料を配布したり、スキルアップの支援も行っている。また、力量に合わせて研修講師を担当させるなど、段階に応じた人材育成にも取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会に参加しながら、同業者との意見交換や交流機会を作っている。また、事前にテーマを決めた上で他のホームを見学し報告会を行うなど、サービス向上や職員育成に役立つ実践的な交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前にホームを見学してもらい、一緒に食事をしたりお茶を飲む機会を作っている。見学に来られない方については、職員が自宅や病院を訪問し、徐々に馴染めるように配慮している。入居後も、ご家族の面会や自宅への外出支援を行うことで、安心して過ごせるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	漬け物や味噌作り、蕎麦打ちや行事食作りなど、利用者の力量に合わせて手伝ってもらったり、アドバイスをいただいたりしている。また、礼儀作法や人生教訓などを教えてもらう機会を作り、互いに支え合いながら過ごしている。利用者が亡くなられた際には全員で見送るなど、家族としての関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情、独自の合図やジェスチャーなどから、思いや意向をくみ取るように努めている。意思疎通が困難な利用者に対しては、ご家族からの情報を得ながら相談し、検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人およびご家族の意向や要望を聴取し、かかりつけ医のアドバイスを取り入れながら介護計画を作成している。その人らしさを重視し、計画の内容を本人やご家族に再確認しながら作り上げている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、職員全員で評価を行っている。職員からの変更の提案や経過記録を参考にしながらカンファレンスを開き、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接する診療所や通所リハビリテーションとの連携が密にとられており、利用者の状態や要望に応じた支援を受けることができる。通院や外出時の送迎、訪問美容や歯科医の往診など、希望や状態に応じて柔軟な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人およびご家族の希望に沿ったかかりつけ医となり、受診時はご家族や職員が同行している。受診の際は医療機関に情報提供し、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針を説明した上で、ご家族の要望や意向を確認し、必要に応じて書面に残している。状態変化の度に、ご家族やかかりつけ医と話し合い方針を定め、関係者全員でケアの方法を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを守り、安心と尊厳のある生活を実現する旨を倫理綱領に掲げており、プライバシーに配慮したケアの方法や言葉かけについて、常に高い意識を持って臨んでいる。個人情報の使用に関しては、ご家族や本人に書面で同意・確認を得ており、記録物等も適切に取り扱われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則的な生活リズムを促してはいるが、起床や就床、食事時間や散歩など、希望や状態に応じて自由な暮らしを支援している。今までの生活環境を重視し、なるべく変化を与えないように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けを、利用者と職員と一緒にやっている。弁当を作って屋外へ出かけたり、ファミリーレストランで食事するなど、楽しみながら食事ができるように工夫している。また、ホームの畑で採れた季節の食材も利用している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回、午前中の中の入浴となっているが、天然温泉のため、いつでも入れるようになっている。個別浴となっており、希望や状態に合わせて柔軟な対応がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	地域の文化祭に出展したり、俳句や手作りの作品を作成するなど、力量に合わせて力を発揮できる機会を設けている。また、クイズへの懸賞応募や外食など、楽しみごとの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事への参加やゲートボール、散歩や神社の参拝など、外出の機会をなるべく多く作っている。ご家族と墓参りに出かけるなど、希望に添った外出の支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯のための夜間の施錠以外は、日中鍵をかけることなく、自由に出入りできるようにしている。外出される場合はさりげなく見守りを行い、自由な暮らしを支援している。近隣住民や警察には広報誌を届け、不測の事態に際しての協力をお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力の下、年に二回の防災訓練を行っている。近隣住民にも参加してもらい、夜間想定も含めて、通報・避難・消火訓練を実施している。地元の消防団との連携も緊密にとられており、さらなる協力体制の強化に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士に献立表をチェックしてもらい、専門的な観点からアドバイスをを受けたり相談を行っている。食事や水分の摂取量を記録に残し、申し送りが円滑に行えるようになっており、体重測定も毎月実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングルームに散歩の際に採取した草花を飾り、行事や季節に合わせて、手作りの装飾品や俳句がホームの随所に飾られている。プランターおよび畑にも花や野菜が植えられており、季節を感じながら心地良く生活できるように支援している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の馴染みのテーブルや椅子、位牌、写真や装飾品などが持ち込まれている。また、身体状況や意向に応じて畳を敷くなど、個別に対応して居心地良く過ごせるように配慮がなされている。		